

# 名古屋芸術大学 竹本 義明学長インタビュー



## 「アート&エデュケーション」 「グローバル」「キャリア」のキーワードを掲げ 大学の改革を理性的に進めていきたい

開学 50 周年を迎えた名古屋芸術大学は、東海地区唯一の芸術系総合大学として他大学とは一線を画した特徴的な教育を行ってきた。竹本義明学長に「ボーダレス」を掲げた 3 年前の大改革、感性教育、高い就職率などについて伺った。

——開学 50 周年を迎えた現在の心境、大学の半世紀をどうみておられますか？

**竹本** それなりに歴史と伝統を築いてこられた 50 年でした。開学当初は、芸術系の大学は単科大学ばかりで、東京藝大以外で「音楽と美術の両学部がある芸術大学」は本学を含め 2 大学だけでした。開学以来、常に社会の動向を見ながら多彩なコースを創設し再編し、現在は 2 学部 2 学科、4 領域、32 コースがあり、来年には芸術学科に舞台芸術領域を開設します。

——芸術系総合大学としての特徴と、多くのコースを設ける理由は。

**竹本** 本学が打ち出しているのは感性教育です。一般的に大学は縦割り教育で、本学も以前は、他学部と横のつながりを持たずして専門的な教育を長く行ってきました。しかし一般社会では様々なことが複雑にからみ合っている訳で

すから、縦割りの学びだけでは学生が社会に出てから困ることもあります。このため本学では社会に通用する人物を輩出していくため、多くのコースを創設し、学内をボーダレスにして学生が多彩に学び、感性を磨けるようにしてきたのです。

入学後に「音楽と美術と両方やりたい」と考え始めた学生にも、学びを提供できるような環境ができています。学生が今後のキャリアを決め、卒業後に社会に適応していけるような大学づくりをしています。

——3 年前、音楽、美術、デザインの壁を取り払い、芸術教養領域リベラルアーツコースを設置されました。

**竹本** 2017 年度、「ボーダレス」を掲げて大改革を行い、学内の横の連携を強め、社会とのつながりを持ちながら授業科目を変えていけ